

# 安い、広い、近い、 新舎房は庭付き4DK!



東江一紀

引っ越しをいたしました。  
突然。そして、ようやく。  
安い古い狭い公団の賃貸住宅に住まうこと  
十年半。3Kのうちのひと部屋（三畳）を娘  
ふたりの机に占領されて以来、就寝用に使える  
部屋がひとつしかなくなり、そこに無理や  
り三組の布団を敷いて、親子五人が“州”の

字になって（おっと、それじゃあ六人家族で  
すね）寝ていたのである。とほほ。  
こりや、いくらなんでもまずいよなあ、と  
思い始めたのは、長女の胸がふくらんできた  
ころだ。まずい、まずい、と思いつつも、  
暇はないし、金はないしで、ずるずる検討の  
時期を引き延ばしているうちに、なんとまあ、

次女の胸までふくらんできた。

おい、おい、待ちなさい。お父さんがその  
うち大ベストセラーにぶち当たって、広うい  
おうちが買えるようになるまで、きみたち、  
発育をストップしておくれでないか。

ってわけにもいきませんよねえ。

だいいち、わたし、ベストセラーだらけの  
地雷原を、十年間無傷で通り抜けてきた強運  
の持ち主なんである。最近では、ベストセラ  
ーのほうか、わたしの顔を見ると、倒れて死  
んだふりをするときまで言われている。

なんとか手を打たなきゃなりません。長男  
（明け五歳）の胸がふくらまないうちに……。

となると、財政状態からいって、家を買う  
のはまったく無理だから、借家探しという線  
に落ち着く。でもねえ、自主懲役中の身では、  
不動産屋回りなどとてもできません。新聞に  
はさまってくるチラシは、売買物件ばかり  
だし……。困った、困った。

困ったときの電腦頼み。

そう、インターネット上に、たしか、賃貸  
住宅情報誌のホームページがあったぞ。おつ、  
これだ、これだ。《ふおれんと》ね。

毎週水曜日に出る雑誌なのだが、インター  
ネットのほうのデータは、火曜の深夜に更新  
されるらしい。つまり、キヨスクや書店で朝  
一番に買うよりも、ひと足早く、しかも無料

(市内電話料金とアクセス料金だけ)で、情報が検索できる。

どう考えても、これでは商売にならないと思うのだけど、ま、文句を言う筋合いはない。ありがたく利用させていただきやしよう。

まず、エリアを限定する。都心から見ても、どの方角かということですね。次に、間取りと家賃の枠を決める。それから、どの沿線かを選ぶ(複数も可)。さらに絞りたければ、駅名を指定する(複数も可)。

十数秒後、検索結果が「〇件です」と告げられる。そのなかに興味をそそられる物件があったら、詳細を表示させ、そこに書いてある不動産屋に自分で連絡する、という仕組み。

検索条件を登録しておく、毎週、電子メールで適格物件の数と詳細情報のURLを知らせてくれるというサービスまであって、感動のあまり、腰が引けてくる。お金も払っていないのに、そんなことまでしていただいているんでしょか？

以後、毎週水曜日の早朝には、まずインターネットにアクセスするのが習慣になった。

わたし、安くて、広くて、子どもの学校に近いという、かなりわがままな条件を付けて検索していたのだが、それでも、週平均六、七件はリストアップされてきた。

ただし、よさそうな物件の大半は、法人限

定」という腹立たしいバリアー付き。ワンルーム・マンションみたいに回転率がよくないから、借り上げ住宅の形で末長く、という貸す側の安定志向の表われだろう。

まあ、気持ちにはわかりますけどね。でも、できることなら、住宅は、困窮度の高い順に割り振られていってほしいなあ。たまには、「自由業者限定」とか「収入不安定な方歓迎」とか「歩合制家賃・ある時払い」とかいう太腹の大家さんがいてもよろしいんじゃないでしょうか。ほんとうにいたら、ちとこわいような気もするが……。

そういう限定のない物件はというと、これがまあ、ほとんどの場合、電話すると、「もう決まりました」と言われるんですよね。もともと雑誌に載せる情報だから、タイムラグがあるのは致しかたないけど、なかには契約済みの物件をアップロードしている例もあるのではないかと、という印象を受けました。

そんなこんなで、不毛の検索を続けること三カ月。ようやく一軒、現地まで見に行ける物件が見つかった。いそいそと出かけましたですよ。いやあ、驚いた。書類上は小さめの4DKで、家賃も安かったから、あまり期待していなかったのだが、静かな住宅街のなかの日当たりのいい一郭で、なんと、広々い庭付きの一軒家。間取りもなかなかよろしい。

アンズよりウメのほうが安い。じゃなくて、案ずるより生むがやすし、というのがわが家の家風。この家風のおかげで、思案することなく三人も子どもが生まれてしまったわけですが、家族全員、じっくりものを考えることを大の苦手としております。

現地臨時家族会議が招集され、約四十秒の会期内に、即契約転居案が満場一致で採択された。浮き足立つ不動産会社の担当社員ががっちり押え込んで、その場で仮契約。家に帰ると、さっそく荷物をまとめ始め、翌週、本契約が済むと同時に、引っ越しトラックの手配、転出・転入の手続き、電話・電気・ガス・水道の移転と、目まぐるしく動き回って、下見の十日後には、疲労困憊の体ながら、もう新居に移り終えていた。

まるで夜逃げですわ。

このスピードと手際よさが、本業でも発揮できれば、今ごろ、もっと大きな自前の家に住めていたろうに(嘆息)。

というわけで、あれあれというまに住環境が一変してしまい、今は引っ越しによるロスを取り戻すべく、新居の一室に自主軟禁されて、起きてから寝るまで仕事をしています。

オタクじゃなくて、ジタク。せっかく転居してきたのに、仕事環境はちつとも変わらないのであった。